



—昭和大学歯科病院の理念—

患者本位の医療  
先進医療の推進  
良き歯科医師の育成

発行責任者 病院長 榎 宏太郎  
編集責任者 広報委員長 丸岡 靖史  
〒145-8515 東京都大田区北千束2-1-1

TEL 03-3787-1151(代表)  
いちいちごいち

ホームページ: <http://www.showa-u.ac.jp/SUHD/index.html>

## 新年のご挨拶

昭和大学歯科病院長 榎 宏太郎

新年明けましておめでとうございます。

皆様におかれましては、お健やかに新年をお迎えになられたこととお慶び申し上げます。

旧年中は、昭和大学歯科病院への多大なご支援とご尽力を賜りまして、誠にありがとうございました。心より厚く御礼申し上げます。

今年の干支は戌(いぬ)で、協調性と柔軟性が鍵となる年とされます。

当院も、今まで目指して来た、全人的医療の展開、地域医療への貢献、先進的歯科医療の探求、高度な臨床教育など、各分野における目標を再確認し、協調性と柔軟性を高めて、さらに邁進する所存でございます。

具体的には、1)地域で開業されている歯科医師の皆様と協調し、連携業務を密にして支援体制

のさらなる充実を図ること、  
2)様々な最先端技術の導入に努め、患者さんの負担を出来るだけ減らすこと、そして、3)常に我々の現場の医療を客観的に評価し、土曜日午後の診療体制の充実を含めて皆様の御希望に柔軟に対処すること、などを着実に実現して行きたいと考えております。

全ての教職員がやりがいを感じながらこの一年を過ごし、多くの患者さんに喜んで貰えるよう頑張ります。

本年も何卒宜しくご指導ご鞭撻のほど、お願い申し上げます。



日の出 撮影者: 岩野



新年明けましておめでとうございます。皆様におかれましては、佳き年をお迎えのこととお慶び申し上げます。

2018年は、6年に一度の診療報酬・介護報酬同時改訂が4月に実施されます。診療報酬本体は、医科+0.63%、歯科+0.69%となっています。今後2025年にはいわゆる団塊の世代がすべて75歳以上の高齢者となる見込みです。

基本的視点として、『医療機能の分化・強化、連携を進め、効果的・効率的で質の高い医療提供体制を構築するとともに、地域包括ケアシステムを構築していくことが必要である』とされています。また、私立大・短大を運営する全国660法人のうち112法人(17%)は経営困難な状態にあることが日本私立学校振興・共済事業団の調査でわかったというショッキングなニュースもあります。今後、病院にとってきびしい状況になると推測されます。しかし、平成24年の保険改訂において医科歯科連携のカギとして、周術期口腔機能管理料の算定が始まり、改訂毎に口腔健康管理の認識が高まり、それと共に年々需要も増えています。周術期口腔管理等の医科歯科連携など多職種間の連携の取組等の推進が求められています。そして、歯科医療機関を受診する患者像が多様化する中、地域の関係者との連携体制を確保しつつ、口腔疾患の重症化予防や口腔機能の維持・向上のため、継続的な口腔管理・指導がおこなわれることが期待されています。具体的な方向性の例として、『口腔疾患の重症化予防、口腔機能低下への対応、生活の質に配慮した歯科医療の推進』が謳われています。口腔健康管理の効果として、

『感染予防』『口腔機能の維持』『健康の維持・回復』があります。歯科病院においては、口腔健康管理のプロである歯科医師・歯科衛生士等が多数在職し、看護師が率先して口腔健康管理に携わることが少ない状況です。しかし、チーム医療を担う一員として、看護師だからできることも多いのではないかと思います。特に生活情報は入院時の情報収集で得られることが多く、この情報を活かして、退院後の生活改善に役立てることが可能ではないかと考えます。また、病棟では、歯科口腔外科疾患の手術目的以外で、口腔リハビリテーション科歯科医師が摂食嚥下評価を行い、摂食機能療法の実施状況の確認、口腔環境の評価を実施しています。歯科医師、歯科衛生士、看護師、必要に応じて薬剤師や栄養士がカンファレンスで情報を共有し、それぞれが専門職として意見交換をして、患者さんに最良の医療やケアを提供できるように日々研鑽しています。

2018年は、予防・健康づくりやセルフケア等の推進が図れるよう、がんばっていききたいと思っております。



病棟スタッフ



手術室・外来スタッフ





## 歯科医師紹介:安心・安全なインプラント治療で美しい歯を!

インプラント歯科 講師 石浦 雄一



「インプラント」って知っていますか? 歯科におけるインプラントとは、歯を失ってしまったあごの骨に人工歯根を埋めて歯を作っていく治療方法のことです。インプラントという言葉を知っている方の中には、身近な人が治療を受けてあまり具合が良くないと言っているのを聞いたことがあるかもしれません。あるいはインプラント治療には手術が必要だから「こわい」というイメージをお持ちの方も多と思います。

私は大学を卒業して歯科医師となって以来、このインプラントという治療方法と向き合っています。当初は大学院生として、よりよい補綴装置(お口の中に見える人口のいわゆる“歯”の部分)を作るための方法を探る、という研究をしていました。天然の歯の根の部分には歯根膜と呼ばれるクッションのような組織があり、ほんの少しですがあごの骨の中で動くことができます。そこで補綴装置に多少の不正確な部分があってもうまく適合しているかのように見えます。これにはもちろん限度があり、大きな誤差は許容できません。一方のインプラントにはこの歯根膜という組織が存在せず、直接、あごの骨と結合しています。そのため、インプラントには動きがなく、とても正確な装置が必要となります。もしも不正確な装置をむりやり装着してしまうと予後(治療の持ち具合)に悪影響を及ぼしてしまいます。つまり、具合の悪い歯となってしまうのです(原因はこれだけとは限らないですが)。せっかくこのような研究を行ってきましたので、患者さんの歯を作るときにもより精度の高い装置を作るように心がけています。

私は大学を卒業して歯科医師となって以来、このインプラントという治療方法と向き合っています。当初は大学院生として、よりよい補綴装置(お口の中に見える人口のいわゆる“歯”の部分)を作るための方法を探る、という研究をしていました。天然の歯の根の部分には歯根膜と呼ばれるクッションのような組織があり、ほんの少しですがあごの骨の中で動くことができます。そこで補綴装置に多少の不正確な部分があってもうまく適合しているかのように見えます。これにはもちろん限度があり、大きな誤差は許容できません。一方のインプラントにはこの歯根膜という組織が存在せず、直接、あごの骨と結合しています。そのため、インプラントには動きがなく、とても正確な装置が必要となります。もしも不正確な装置をむりやり装着してしまうと予後(治療の持ち具合)に悪影響を及ぼしてしまいます。つまり、具合の悪い歯となってしまうのです(原因はこれだけとは限らないですが)。せっかくこのような研究を行ってきましたので、患者さんの歯を作るときにもより精度の高い装置を作るように心がけています。

さて、安全性についてはどうでしょうか。我々は最新のデジタル技術を取り入れて治療に取り組んでいます。その中でも特筆すべきは最新の技術を

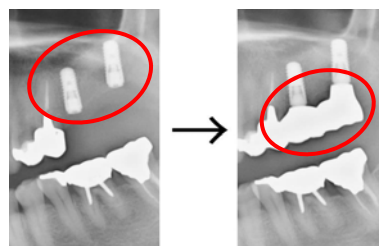
使ったナビゲーションシステムの応用ではないでしょうか。これは患者さんのあごの骨のCTデータをもとにコンピューター画面でシミュレーション手術を行い、より難易度の高い、条件の厳しい症例にも安全な手術が行えるように工夫をしています。

ところで、失った歯を取り戻せるとしたら何を望みますか? できれば、元あった歯のようによく噛めて、見た目も美しいものが欲しいのではないのでしょうか。特に前歯の場合、見た目は重要です。しかし、歯ぐきの形を含め、美しい歯を作るのはやや難易度が高いのです。私は前歯の治療にはこだわりを持って、より満足度の高い歯を提供しようと努力しています。そのためにCAD/CAM(コンピューター支援による設計と製作)を利用しています。少し前までは歯科とコンピューターの関わりはそんなに強くなかったと思いますが、近年、特にインプラントの分野においてはデジタル技術がかなり入り込んできており、なくてはならないものになってきています。幸い昭和大学歯科病院ではこの他にも様々なデジタル機器・技術を導入しており、先進的な治療を提供しています。

インプラント治療は1歯欠損からすべての歯を失った状態まで対応できます。歯を失ってお困りの方や入れ歯以外の治療方法をお探しの方は、どうぞインプラント歯科にお気軽にお問い合わせください。



ナビゲーション手術の様子



インプラント埋入直後 → インプラント治療後

## 歯科技工室 紹介

歯科技工室責任者 鍛冶田 忠彦

昭和大学歯科病院歯科技工室には馬場一美歯科技工室室長(補綴歯科科長兼任)のもと、国家資格を持つ15名の歯科技工士が在籍しています。保険技工から自費のセラミックやインプラント技工、そして矯正装置まで、歯科病院で治療を受けた患者さんの歯科技工物を院内にある歯科技工室にて製作しています。

また併設されているデジタルラボラトリーにおいては、コンピュータを使用したCAD/CAMによるデジタル技工物のデザイン・加工を行っています。通常では、デザインしたデータを大きなミリングセンターと呼ばれる工場にデータを送って削り出しを行ってもらうのですが、当院においては、デザインから加工・仕上げまでを一貫して院内製作をしています。一部のインプラント関連技工物においては、データ送付し外部委託にて製作依頼を行うことも有ります。このデジタルシステムを構築し、臨床ワークフローに取り入れた大学病院は、昭和大学歯科病院がそのさきがけであり、さらに進化を続けています。

院内にはCAD機器が7台、そして、レジンやセラミック、ジルコニア(半焼結状)が削り出し可能なCAM機4台が設置され、国内随一の大学病院デジタル技工室を完備しております。

また、最近では治療室にてデジタル印象(お口の型採りをせず、デジタルスキャナーにて採得する方法)が一般化され、不快な思いをすることなく短時間で型採りできるシステムも導入しています。こうして得られたお口の中のデータを直接デザインし、CAD/CAM機器を駆使して院内製作をしております。

デジタル技工といってもボタンやマウス一つでゲームのように簡単だと思われがちですが、誰もが簡単に扱えるわけではなく、長年の臨床経験で得た知識と技術があってこそ、そのパフォーマンスが最大限に活かされます。

歯科技工室では、これからも高度な最先端医療と、高度なデジタル技工を維持し、昭和大学歯科病院に来院される患者さんの健康回復の一助として、これからも地域社会に貢献する職場でありたいと願っております。



デジタルラボラトリー

CAD室 全景



CAM室 全景

口腔内をスキャン中



歯科技工室スタッフ

## 編集後記

二十歳の成人式は一生に一度しかない晴れ舞台で、待ちに待った記念すべき日です。そんな大事な日に晴れ着が届かないという事件が起きたことに怒り心頭です。

新成人を迎えられた皆さん、決してこんなオトナにはならないでください。(T.O)

### 昭和大学歯科病院からのお知らせ

● 平成30年1月より、診療時間が変更となりました。

診療時間 8:30~17:00(月曜日~土曜日)  
初診受付 8:30~11:30、13:00~15:00

※診療科により時間が異なります、詳細はお問い合わせください。

昭和大学歯科病院 地域歯科医療連携室 電話 03-5498-1954(直通)